

このままサケの遡上が絶望的な状況が続けば、チグニック住民のコミュニティの将来が危ぶまれる



チグニック・リバーのサケの遡上は、チグニック・ベイを含むアラスカ半島の100年以上続く小さな漁村を何世代にもわたって支えてきた。しかし4年連続で、誰にもはっきりとした理由がわからないまま、サケの遡上量が極端に少なくなってしまった。このままでは、家族の絆である漁の伝統を失い、村が消滅してしまうのではないかと心配する人もいる。

記事参照：Chignik residents fear for their communities' future if abysmal salmon runs persist - Alaska Public Media (2021.9.13/Alaska Public Media)

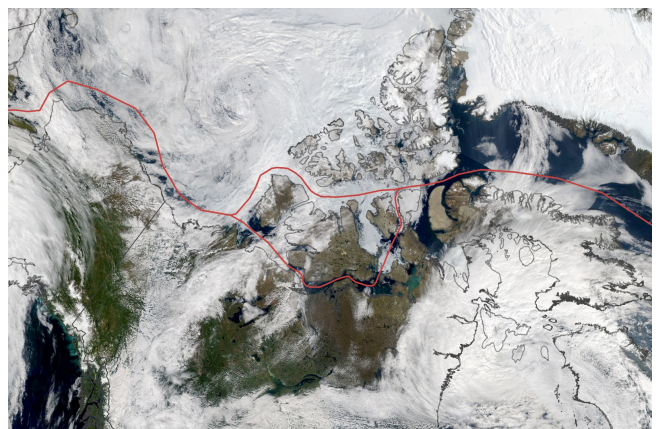
→A satellite image from August 22 shows sea ice persisting in parts of the Northwest Passage. (Lauren Dauphin / NASA Earth Observatory using MODIS data from NASA EOSDIS LANCE and GIBS/Worldview)

北極海の海氷面積は1年の最小値に近づき、近年の超低水準の年よりもわずかに大きくなっている



北極海の海氷は、例年9月にその年の面積が最も少なくなるが、今年は近年の面積を大幅に上回る可能性が高くなっている。これは、一部の地域で冷涼な曇り空が観測されたため、海氷の一部が保たれたことによるものである。

記事参照：As it approaches its yearly minimum, Arctic sea ice extent is slightly greater than recent ultra-low years - ArcticToday (2021.9.16/Arctic Today)



ムルマンスク州で10人に1人が ウイルスに感染、死者数は 2,000人に迫る



9月13日に143人のCOVID-19の新規感染者が統計に加わり、合計70,037人になったと地域の保健当局が発表した。ニュースサイト

「Severpost」によると、人口約70万人のコラ半島では、人口の10%が感染したことになる。

記事参照：Every tenth have contracted the virus in Murmansk region, death toll nearing 2,000 | The Independent Barents Observer (thebarentsobserver.com) (2021.9.13/The Barents Observer)

アフリカのフィヨルドの化石 は、遠い将来の北極圏の姿を 知る手がかりとなる



ナミビアには化石フィヨルドのネットワークがあり、気候科学者が過去の気候を理解するのに役立つだけでなく、温暖化した世界で現代のフィヨルドが果たす役割についても示唆していると、最近の科学論文の著者は指摘している。

記事参照：Fossil fjords in Africa hold clues to how the Arctic could look in a distant future - ArcticToday (2021.9.21/Arctic Today)

気候変動で北極の氷が解け、 ホッキョクグマ近親交配の 可能性



新たに発表されたノルウェーの研究によると、スヴァールバル諸島のホッキョクグマは、遺伝子の多様性が驚くほど低下しているという。研究者たちは、気候変動による北極の氷の急速な融解が、異なるホッキョクグマのグループの孤立化につながっていると指摘している。異なるホッキョクグマの集団が交流することが難しくなるにつれ、地域のホッキョクグマの集団に近親交配が見られるようになってきた。気候変動がさらに激しくなり、北極の海氷がさらに解けると、ホッキョクグマの集団の遺伝的多様性が失われる傾向が続くだろうと予測される。

記事参照：Polar bears may be inbreeding as climate change melts away Arctic ice - ArcticToday (2021.9.16/Arctic Today)



↑A polar bear with cubs on Nordaustlandet in the Svalbard archipelago. (Thomas Nilsen / The Independent Barents Observer)

LNG船4隻、露に貸出し 商船三井



商船三井は14日、液化天然ガス（LNG）船4隻を2024年からロシアのエネルギー会社に貸し出す契約を結んだと発表した。地球温暖化で氷が解け、船舶の通航や資源開発が容易になった北極海でのビジネス拡大につなげる狙いがある。

記事参照：LNG船4隻、露に貸し出し 商船三井 | 毎日新聞 (mainichi.jp) (2021.9.15/毎日新聞)

グリーンランド、クアンナー ステット社のレアアース鉱 山を停止させる法案を準備 中



グリーンランドの新政府は、ウラン採掘を禁止し、世界最大級のレアアース鉱床として物議を醸しているクアンナースイート鉱山（別名クヴァネフィールド鉱山）の開発を中止する法案を準備していると、同自治政府の鉱物資源相が語った。

記事参照：Greenland prepares legislation to halt Kuannersuit rare earth mine - ArcticToday (2021.9.17/Arctic Today)

グリーンランドのCOVIDの 関心はヌークに移る



グリーンランドの首都ヌークでは、過去1週間で感染者数が10倍に増加したため、レストランや屋内の公共の場に行く場合は、COVID-19の予防接種を受けているか、過去2日以内に陰性反応が出たことを証明する必要がある。

記事参照：Greenland's COVID concern shifts to Nuuk - ArcticToday (2021.9.17/Arctic Today)

ロシア北極圏で記録的な数の アトランティック・セイウチ を発見



ロシア北極圏の多数の島々を訪れた探検隊が、記録的な数のアトランティック・セイウチを発見し、これまで知られていた以上にセイウチの生息地が広がっていることを明らかにした。

記事参照：Scientists find a record number of Atlantic walrus in the Russian Arctic - ArcticToday (2021.9.20/Arctic Today)



→Walrus rest on Arctic sea ice. (Thomas Nilsen / The Independent Barents Observer)

ムルマンスクの輸送拠点で 工事再開



1年近く中断していたラヴナのユニバーサルポートで、ロシアの石炭輸出を促進することを第一の目的とした工事が再び開始された。ムルマンスク州にとって、新しい港湾ターミナルは、最大25,000人の新規雇用を創出することを目的とした大規模な産業化計画の一部である。

記事参照：Construction resumes at a Murmansk transport hub - ArcticToday (2021.9.21/Arctic Today)



First, the camp for workers is to be built. Then, construction of the port facilities by the Kola Bay will start. (Ministry of Information Policy of the Murmansk Region via The Independent Barents Observer)

北極域は、気候変動の影響により大きな変化に直面しています。その変化は、自然環境のみならず、政治経済、社会、北極先住民及び住民の生活や暮らしにも及び、それらが複合的に絡み合った形で相互作用しています。こうした変化への適応、適応能力やレジリエンスの育成のプロセスは、複雑で予測困難な社会的課題であると同時に、現地住民のwell-beingを獲得するための機会となっています。

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。今回のVol.11は、2021年9月後半のニュースを主に掲載しています。

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監 修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト：https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/

